

中医学の臨床への普及と科学的検証

第1回日本中医学会学術総会

日本中医学会(酒谷薫理事長、平馬直樹会長)は、9月3日と4日の2日間、タワールホテル船堀(東京都江戸川区)で第1回日本中医学会学術総会を開催、約250人が参加した。同会は中医学を日本の伝統医学に有効に活用することを目的に10年に設立し、同年8月に設立記念シンポジウムを開いている。今回は「中医学の臨床への普及と科学的検証」をテーマに平馬氏が会頭をつとめ、中国から趙吉平氏、韓国から金英信氏、台湾から陳彦芳氏を招いた。



酒谷薫氏

◆医書講読は金科玉条とすべきでない——散逸補填の成立過程の認識を会頭講演では平馬氏が中医学を臨床応用する意義と注意点にも言及した。

5ヵ月間月経なし。全身倦怠、耳鳴り、眩暈、頭痛、口の渇き、のぼせ、ほてり、イライラ感、寝汗などから腎陰虚・肝気鬱結の証として六味地黄丸合加味逍遙散を投与。1ヵ月で自覚症状が軽減、3ヵ月後に月経が来潮徐々に漢方薬を減量。

水喰症は西洋医学的には冷蔵庫の発達とともに生じた現代病で、鉄欠乏性貧血による精神疾患の一つとされ、口腔内体温を冷やすために水を食べる行動を起すという。渡邊氏は「中医学的には、陽虚・血虚の病態は、脾胃を温める乾姜、茴香、附子や補血の当帰、芍薬、何首烏などが配合される処方を用いる。大量の温剤を用いると、逆にのぼせ感が強く出現する症例を経験。この場合は徐々に温めていくか少量の苦寒薬を併用して効果」と、この病態の患者に漢方薬を投与した17例の症例について語った。かつてはなかった現代病、中医学の診断方法を応用することで治療できる場合も少なくない。

◆風土の違いを考慮した中医学の応用が不可欠。平馬氏は、各時代の名医の具体的臨床例、現代のカルテに相当する「医案」を学ぶ際の重要事項として、中医学を応用し伝統医学を實踐している中国、台湾、韓国との交流を、「地域、民族、気候風土の差異はもちろん、現代科学、現代医学の目も借りて応用、発展の過程を考えるべき」と指摘した。

◆現代病も中医学診断で治療に活路。富士ニコニコクリニックの渡邊善一郎氏は、「水喰症」について発表した。

◆工キス製剤の合方による使用の発表も。個別演題では、北陸天学薬学部の劉園英氏が「漢方工キス剤合方の中医学の運用」と題して、中医学の診断に基づいた健康保険適用工キス剤の使用した例を提示した。

健康保険の疾病分類は西洋医学の病名にならざるを得ない。

古くは「和」の心に誇りと自信が持てる日本人の「和」の心に誇りと自信が持てる本



平馬直樹氏

◆「基礎医学の『黄帝内经』、臨床医学の『傷寒論』、薬物学書の『神農本草経』」が大きな土台。それに次ぐ『難経』『諸病源候論』隋、唐の方書、宋代の勅撰本草書などが原典に立ち返る手掛かりになる」と提示した。

◆44歳女性。月経不順で

日本人の「和」の心に誇りと自信が持てる本

神々も悩み苦しみ、変容する
古事記 変容する神々

独裁と戦争からの解放
この永遠の難題をめぐって神々は天と地と黄泉の国を舞台に運命的な変容を遂げていく
古事記を明快な論理で解説

神々の鼓動が響き渡る愛と死と再生の叙事詩

「もう争いはいやだ。さまざまパラダイムの相違を和諧させて行くことこそが、私たちの生きて行く唯一の道だ」この思想こそが、実は『古事記』が編纂された本当の意図ではなかったのか。私はこの作品を通して、そう考えるに至った。

千葉大学大学院医学研究院 寺澤捷年氏

佐賀純一著
●四六判上製
246頁
定価1260円
税込

東洋医学舎
品切れは書店注文が直接小社へ
江東区富岡1-11-5-203
03-3630-6151/F3643-3431

小説 蛭子
ひるこ
古事記より

佐賀純一著
●四六判上製
246頁
定価1260円
税込